

編集後記

一九〇〇年代最後の「大分県地方史」をお届けします。

巻頭論文として、東京大学五野井隆史先生から、ザビエル渡来四五〇年を記念しての講演会における講演の内容に基づいた玉稿「ザビエルと豊後」をいただきました。ザビエルを中心として宣教師たちの豊後における活動を、詳細な史料分析に基づいて論述されており、今後の大分県におけるキリスト教研究の基盤となるものといえます。

本号では「地方史研究と地域史学習」を特集しました。長野氏には高校における地域史学習の現状について、三重野氏には生涯学習の視点から地域の歴史を学ぶ意味について、櫻井氏には博物館の立場から地域史学習への提言を、安田氏には文書館の立場から地域史学習への提言を、それぞれまとめていただきました。佐藤は、大分県における地方史研究と地域史学習の現状を整理してみました。異なる立場からの意見を出し合い、論議の糧となればと考えています。地方史研究と地域史学習の実りある交流がなされることを期待しています。

二〇〇〇年代にむかって、会員皆様の一層のご研鑽を願い、またご多幸をお祈り申し上げます。